

平成 29 年度 事業 計画 書
社会福祉法人はりま福社会・せ い り よ う 園
基 本 理 念

今年度より、業務の執行責任を負う理事会と、その任命責任を負う評議員会が新たな体制で社会福祉法人の『公益性』を担い、『社会貢献』と地域の『福祉基盤充実』を目指して、各事業を行います。

人は『老いて尽きる命』を仲間に委ねて介護を任せ、次世代へのバトンタッチを完了します。高齢者が社会の一員として終える人生を介護が支え、老いて尽きる命が『三つ子の魂』として幼児の心に宿り、『多様に生きる本能』と『柔軟な社会性』を伝えます。『介護』を通して人は、思想や社会性を学び、心が豊かに成長して、『やがては老いる吾身』を愛おしく想う心を養います。『介護』は、限りある命と命を繋いで社会を引継ぎ、文化や文明を発展させて歴史を続ける為に、人間のみが行う、優れて『人間的な営み』です。

地域社会の中で幼児や児童や若者達が、老いて尽きる命と出逢い、或いは、生れながらに障害を持つ子供達と接して、介護について考え、悩み、多くを学んで豊かな心を育み、逞しく生きる『多様で柔軟な思想と社会性』を身に付けて欲しいと願い、『新たな事業』に着手します。

(1) 平成 29 年度事業計画

- ① 空き家を活用した高齢者の『グループハウス』を開設します。
- ② 幼児保育事業を、さくら1階テナントで計画します。
- ③ 学童保育を、リバティかこがわ2階ホールやアトリエで計画します。
- ④ 障害者支援の、住い・就労・創作・生産などの各種事業を計画します。

施設利用の縁で貸して頂ける空き家を改装し、高齢者5人での共同住宅2軒を用意します。施設より徒歩数分の場所にあり、小規模多機能居宅介護事業や、定期巡回・随時対応型訪問介護・看護事業の利用で24時間を通して適宜、その自立した生活を支えます。老いてなお地域社会の一員として最期まで懸命に暮らす姿が、子供達に『何か』をバトンタッチするのです。

入居施設にお住まいの高齢者も、地域社会の一員としてその人生を締め括り、柔軟に生きる本能と社会性を、若者達にバトンタッチして頂きたいと願い、『地域社会と融合』する施設運営を目指します。

老いて要介護や認知症になる人も、生れながらに障害を持つ人も、共に人間社会の『多様性と柔軟性』を象徴する存在であり、世相を映すバロメーターです。介護を必要とする人が、持てる力のベストを尽くして懸命に生きる姿は、『社会を構成』して生きる人間の原点であり、彼らを社会の一員として受容れる『思想・人間性・社会性』が、『持続可能な社会』を実現する為の出発点です。そして、地域包括ケアシステム構築の『出発点』でもあります。

(2) 平成29年度業務指針

1 食事と健康管理

今年度中に「調理業務」を外部に委託し、特養・ケアハウス・サ高住は、集中調理と配食に変わります。『食べる』事は生きる為の原点であり、食事の気配・雰囲気は「生活」を実感する瞬間です。最期の瞬間まで『生活の気配』に浸る喜びを感じながら生きて欲しいと願い、感性・感覚に働き掛ける為の工夫を凝らします。口腔内の保清に努め、『自然の摂理』に沿った生命活動を最期まで支えます。

2 認知症の人の介護

認知症は「進行性」の病気です。初期の不安と混乱を過ぎれば安定期に入り、大半の人は長年の生活で培った感性・感覚・経験則を基に、吾身の老いを受容れ、在るがままに最期まで暮らします。『少々の辻褃の合わぬ処』に対する『寛容さ』を世間の人々に教えてくれる、人間社会の『多様性』と『柔軟性』を象徴する存在です。認知症になっても地域社会の一員としての暮らしを支える『介護とその叡智』が、多様で柔軟な『持続可能』な社会への途を拓きます。

3 ケアプランとリスクマネジメント

『ノーマライゼーション』に添って『社会参加』と『自己実現』を目指す為には、主役として自らの暮らしを決める『主体性』が重要です。自立支援に努め、人として不合理なリスクは排除しながら、『QOLを尊重』し、生活する上で主役として『引受けるべき妥当なリスク』とその対処を、ケアプランで明らかにします。

4 サービスの向上に向けて

自由な暮らしと良好な生活環境の確保に向けて、感染症対策、身体拘束・行動制限の廃止、等々について常に職務を点検し、変更・改善に努めます。海外研修・外部研修会・内部研修会・各種会議を通じて、職員相互に切磋琢磨し、専門職としての技術を磨き、職業人としての資質を高めます。

5 事故への対応

日々機能が低下する暮らしの中で、不測の事故は起り得る事を前提として、迅速かつ適切な対処と丁寧な説明を旨として対応します。3名の第三者委員を中心に『サービス改善委員会』を毎月開催して、適切な対応と業務の改善に努めます。

6 防災避難対策

火災・地震・水害など災害時には自力で避難できない人が大半であり、火災を想定して年に2回、初期消火と避難誘導の訓練を行います。

地震や台風等大規模災害も想定し、『福祉避難所』としての役割も考慮して地域にお住まいの要援護者も視野に入れて、『地域と連携』した避難訓練を企画します。非常食を3日分以上に備蓄して年に1回は非常食を食し、防災意識の向上に努めます。

7 季節毎の行事

年初の「初詣で」から年末の「餅つき」まで、季節に応じた行事を取り入れて自然の変化を感じ、ご家族や地域との接点を拓げます。夏祭りは、地域のボランティアグループや障害者団体等の協力を得て、未来の共生社会を目指す試みとして、様々に工夫します。

(3) 平成29年度個別事業計画

1 特別養護老人ホームせいりょう園(ユニット型30人)の運営

ご利用者自身が主役として、自らの生命力・生活力を存分に発揮して最期まで懸命に暮らす為に、身体拘束や行動制限は行わずに、地域社会との接点が拓がる生活を実現します。調理作業に代り、音や匂い・香りに配慮して、生活感が漂う居住空間を創ります。

2 地域密着型特別養護老人ホームせいりょう園(20人)の運営

個室仕様の2人部屋で、行き交う人の気配を感じ、1階や東西両端の食堂から漂う雰囲気にも包まれて、生きている事を実感する喜びの中で、人生の最終章を生き抜いて欲しいと願い、主役の暮らしに相応しい『居住空間』を整えます。

3 軽費老人ホーム『ケアハウスせいりょう園』の運営

バス・トイレ・キッチンを備えた個室で、老いによる心身の機能低下と折合を着け、人生の締め括りを見据えて暮らす『終の棲家』として最適です。介護サービスを利用し、ご家族と協働して、地域社会と繋がりのある居住空間の中で、最期まで『自立した存在』として支えます。

4 指定短期入所生活介護事業(ショートステイ)の運営

人生の最終章を自宅で過ごす為の計画的利用と、看取りの場として短期利用する場合があります。何れの場合でも、生活空間として心地よい居場所でありたいと願います。夫々の固有の関係性を拓げ、主治医や訪問看護師・ケアマネジャー等の多職種のスタッフも関与して、人生の最終章を彩る『幸福感のある暮らし』の実現を目指して、事業を展開します。

5 指定地域密着型通所介護事業(デイサービスセンター)の運営

目先の予防や健康への『願望』ではなく、老いの途を支える『感性と感覚』に働き掛ける工夫を凝らします。自然の変化や他者の視線を感じ取って、生活空間の中で自らの居場所を探る力を養い、老いを受容して『人生の仕上げ』に備えて頂きたいと願います。土・日も含めて毎日の運営を目指し、

定員も増やして、新たな総合事業にも取り組みます。

認知症対応の小規模な共用型デイサービス2か所（各定員3名）と、利用者の特性に応じて利用を分担し合い、地域社会との関係性を広げます。また、児童や障害児者との接点も模索したいと考えます。

6 老人居宅介護等事業の運営

① 指定訪問介護事業（ホームヘルパーステーション）

② 指定地域密着型定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業

重度の要介護者が、地域社会の一員として自らの居宅で人生を締め括る暮らしには、訪問介護の充実が欠かせません。調理や清掃などの家政行為が中心となって創りだす生活空間で、生活援助技術・身体介護技術・看取り介護技術等の習得に努めます。介護保険対象から外れる日常生活支援サービスにも努めて、人生の仕上げの暮らしを最期まで支えます。

2つのサ高住の『安否確認と生活相談』を担当し、希望者には食事を届ける役割を担います。更に『地域サポート型特養』の窓口として、地域全体に生活支援事業を展開する途を拓きます。

『空き家活用のグループハウス』に住む方々の生活を最期までサポートする為、小規模多機能サービスとの連携・分担・協働の途を探ります。

7 指定訪問看護事業（訪問看護ステーション）の運営

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業の看護部門を担い、かかりつけ医と連携して、訪問看護師がご本人のみならずご家族や介護職をも支えます。医療的な処置を受けながら、人生の仕上げの時を迎える高齢期の暮らしで、『自然の摂理』に沿った営みに潜む『QOLやQOD』に配慮して緩和ケアに努め、自らの生活空間で幸福な想いに浸りながら、人生を締め括って欲しいと願い、訪問看護を提供します。

8 指定居宅介護支援事業（介護相談室・ケアプラン作成）の運営

要介護の高齢者が、社会関係を維持しながら尊厳を持って最期まで居宅で生活し、QOLと誇りを護る為に、ケアプランを作り家族や関係者との調整に当たります。高齢者が『主役として人生を締め括る』過程は、ご家族にとっても、地域の人々にとっても、介護職にとっても、貴重な経験の宝庫です。ご本人にとっては人生で『最後の自己実現』であり、人生を締め括る姿を見届ける経験は、次世代の人の思想や社会性を育む貴重な『原体験』となります。出産や子育てを支える思想を育み、未来に希望をつなぐ『地域包括ケアシステム』の原点であり、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業と協働する途を、広く大きく築きます。

9 指定認知症対応型共同生活介護事業（グループホーム）の運営

認知症の人は、『人格崩壊の過程にいる人』ではなく『ベストを尽くして

懸命に生きている人』であり、その生き様から多くの事柄を学び取ることが出来ます。長年の生活で培った感性・感覚と経験則で他者との距離を測り、居場所を探り、適度な関係性を築く『社会生活の適者』です。介護現場の観察力と発信力を高め、運営推進会議を通して、地域の人々に認知症の人から多くの学びが在る事を伝えて行きます。

2つのグループホームには、夫婦で入居できる部屋が有る事を周知し、定員3人の共用型デイサービスの利用者を募り、認知症の人が小さな生活空間の中で自らの生活感覚を発揮する暮らしを通じて、地域社会の一員としての暮らしを維持し、認知症の人の居場所を地域に広げます。

10 指定小規模多機能型居宅介護事業『輝きの家ながすな』の運営

新たに始める空家活用『グループハウス』の住人には最適の事業であり、高齢者が例え一人暮らしであっても、自らの居宅で最期を迎えるまでの生活を、総合的・包括的に支えるケアシステムです。訪問介護を中心に多機能性を発揮して、ご家族やご友人とも協働して適度な距離を測り、人生を締め括る姿を支えます。運営推進会議を通して、認知症や要介護のお年寄りから多くの学びが得られる事を、広く地域の人に伝えたい、と願います。

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」や「居宅介護支援事業」との連携・分担・協働の途を探ります。

11 「リバティかこがわ」「自愛の家さくら」の運営

『バス・トイレ・キッチン』を備え、『自分流の暮らし』に最適な『終の棲家』です。適度な密度のコミュニティの中で他者と係わり、適度な距離とタイミングで介護サービスを利用して、『主役』として人生を締め括って頂きたい、と願います。2つのサ高住は、要介護になっても、認知症になっても、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能居宅介護などのサービスを利用して最期まで自分流に暮らし、次の世代に社会を引継ぐ役割と責任を果たす為に最適な、『地域包括ケアのモデル住宅』です。『安否確認と生活相談』には、せいりょう園のホームヘルパーステーションが当り、特別養護老人ホームと老人介護支援センターが、『適度な距離』で生活をサポートします。

12 鍼灸マッサージ治療センターの運営

認知症や要介護になる惧れを感じているお年寄りには、心の内に生じてくる不安に対して折合を着け、安心感や信頼感を生み出す心の拠所が必要です。マッサージや指圧・柔道整復術は、生物学的な治療効果と同時に、人の手が触れる感覚が他者への信頼感や安心感を生み、心地良さや安息感を与える優れた技術です。介護の原点にも通じる高度な技術を入居するお年寄りに提供しながら、地域の多くの皆様にも利用して戴きた

いと願います。職員の福利厚生も担います。

13 せいりょう園喫茶ルーム『ラヴィック』の運営

『サ高住入居者の食堂』『職員給食の場』『地域の人憩の場』としての運営を続ける為、「調理業務の外部委託」に伴い、大幅な『改善と工夫』が必要です。障害者の活動や就労を支援する可能性を探り、地域の生産物を地域で消費する途を模索し、子供達の『食育』にも係わりたいと願います。車椅子のお年寄りや認知症の人がご家族とお茶を飲み談笑する場であり、地域の人が相集ってコーヒーを飲み、打合せの場として利用して頂ける場所でありたいと願い、エントランスには様々な情報を発信し交換できるスペースを設け、街角コンサートでピアノの音が聞こえ、様々な人々が何気なく触れ合える場でありたいと願います。

14 せいりょう園老人介護支援センターの運営

『地域サポート型特養』の窓口として地域包括ケアシステムの拠点の役割をめざして、下記業務と共に地域交流事業を企画し運営します。

- ☆ 入所待機者の個別の待機状況を把握し、多様な解決策を提示します。
- ☆ 介護予防・生活支援総合事業を多様な形態で実施するボランティアな『組織と人』を育成し、支援します。
- ☆ 『加古川認知症の人と家族・サポーターの会：元気会』の定例会場を提供し、活動を支援します。
- ☆ 認知症の人に学ぶ『りょうえんカフェ一番星』を開催します。
- ☆ 第三者委員を中心に毎月『サービス改善委員会』を開きます。
- ☆ 職員の資質向上を意図した企画・研修・相談を行います。

◎地域交流事業を企画します

ご利用者の自立と主体性を尊重し、ご家族や地域の人々との交流を深め、法人事業と介護業務への理解と信頼を高めることを目指して、以下の取組を企画し実施していきます。

- ① のびのびルーム：ご利用者の自主サークル活動・13時～
月：自彊術、火：映画、水：カラオケ、木：自彊術
場所：せいりょう園支援センター地域交流ホール
- ② 共生の会：シニア世代の勉強会・毎月第1月曜日18時30分～
- ③ 介護について語ろう会：毎月第4金曜日14時～
- ④ 機関紙『せいりょう園』の発行：月刊
- ⑤ 木野雅之ヴァイオリンリサイタル：6月24日（土）予定
- ⑥ ロンドンアンサンブルコンサート：12月予定
- ⑦ せいりょう園陶芸教室：指導・喜多千景・中本万理恵、顧問・川西幹夫
：月3回、日曜昼・月曜午後はアトリエにて

：金曜午後は地域交流ホールにて

- ⑧ 仏教講話：ご住職持ち回りで法話を聞く会、毎月第1月曜日15時
- ⑨ ピアノ教室：金曜日10時～藤城亜紀子先生のピアノ伴奏で歌う会
- ⑩ 自彊術療法：水曜日15時～佐藤鈴子奥伝師範の指導により、安心ホルモンの分泌を促す療法の実技指導、地域交流ホールにて
：日曜日10時～グループホームまどかにて
- ⑪ 音楽療法：水曜日14時～15時、築山佳奈子先生の指導で合唱・合奏を楽しみながら、リズム感覚の活性化を図る試み
- ⑫ 造形教室：金曜日10時～11時、喜多千景先生・中本万理恵先生の指導により、粘土や小麦粉を使って造形的な感覚の活性化を図る試み。「せいりょう園グループホーム」「グループホームまどか」の2カ所で実施
- ⑬ 書道教室：1・3火曜日13時～、土井清子先生の指導と近隣の皆様の参加を得て、一緒に練習します
- ⑭ ボランティア活動の推進と募集：のびのびルームの世話、手芸、園芸、折り紙、書道、等々をお年寄りとご一緒して共に楽しむボランティアの方が、個人やグループで多数参加して下さっています。新たな方々の参加を歓迎します。
- ⑮ 街角コンサート：リバティかこがわ1階廊下に置いてある自動演奏ピアノを弾いて、『街角コンサート』を開いて頂ける方を募集します。
- ⑯ 「安心できる地域ケアを考える会」定例会の会場を提供します。
：毎月第四火曜19時～21時リバティかこがわ2階

15 その他事業

社会福祉法人の公益性を自覚し、地域社会で生き辛さを抱えて暮らしと向き合う人々を支援する事業を模索します。

- ・『人間再生を可能にする街』を目指し、加古川市に在る4つの矯正施設（加古川刑務所・播磨社会復帰促進センター・加古川学園・播磨学園）を満了出所した人の生活を支援する途を探ります。